

事業報告

平成29年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ③

平成30年1月20日（土）～21日（日）

【対象】幼児と保護者

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用して、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供するとともに、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

～後援～

伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時						11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
一日目	10:45～11:00 受付					開 会 式	昼 食	松ぼっくり クラフト アイスクリーム作り				タ ベ の つ ど い	入 浴	夕 食	キ ャ ン ド ル フ ァ イ ヤ ー	(親) ワ ー ク シ ョ ッ プ	(子) 絵 本 読 み 聞 か せ	就 寝
二日目	6 起 床	7 朝 の つ ど い	朝 食	8 荷 物 整 理	清 掃 確 認	9 親 子 運 動 遊 び	10	11 親 子 で 料 理 に 挑 戦 ・ ほ う と う ・ お に ぎ り	12	13 閉 会 式	14	14:20 解散						

～参加者～

10家族（大人12名、小学生3名、幼児11名） 計26名
（長野県、愛知県）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 松ぼっくりクラフト&アイスクリーム作り

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

「雪まつり」を行う予定だったが、雪がないので「松ぼっくりクラフト」と「アイスクリーム作り」を行った。「松ぼっくりクラフト」は、親子でじっくりと時間をかけて工作に集中できた。「アイスクリーム作り」は、固めるために親子で協力してかきまぜ、おいしいアイスクリームが出来上がり皆満足していた。



活動Ⅱ キャンドルファイヤー

講師：ボランティア

ろうそくのほのかな明かりのもと、ボランティアが進行し、親子で歌やゲームを楽しんだ。参加者も職員もボランティアも、みんなの心が一つになった瞬間であった。



活動Ⅲ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：ボランティア

第1回のキャンプで絵本専門士の谷口先生の読み聞かせを学んだボランティアが、この日の読み聞かせを行った。子ども達は、絵本に夢中になり、キャンドルファイヤーで高揚した気持ちをクールダウンすることができた。



活動Ⅲ ワークショップ（保護者対象）

講師：松本短期大学 名誉教授 柳澤秋孝氏

「親子運動遊びについて」と題して親向けのワークショップを行った。第1回のキャンプでも「親子の絆づくりは10歳まで」と題して話を聞いていたので、その後の約半年の間の我が子の変容について意見を交換した。どの子ども運動遊びに興味を持つようになり、できることが増えたという意見が多かった。

活動Ⅳ 親子運動遊び

講師：松本短期大学名誉教授
柳澤秋孝氏

第1回で柳澤先生より御指導いただいた内容を復習した。6か月経過して子どもたちの動きがどのように変容したかを保護者に観察してもらった。また、跳び箱と鉄棒を用意して、懸垂力と支持力がどのように生かせるかを検証した。前回より成長した子ども達の姿を見ることができた。



活動Ⅴ 親子で料理に挑戦 メニュー「ほうとう」「おにぎり」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

今回のメニューは、温かい料理として「ほうとう」と幼児でも作ることでできる「おにぎり」にした。ほうとうは簡単に作ることができ、しかも体が温まるので好評であった。おにぎりは、子どもたちが作ってくれたのでおいしく感じた。

～参加者の声～

- 子どもは「工作がとても楽しかった」と喜んでいて、自由に思い思いにつくらせていただけたことがよかった。
- キャンドルファイヤーでは、ボランティアの皆さんのはつらつとした進行に子どもたちはずっと引き込まれ楽しんでいた。
- 親子運動遊びでは、柳澤先生の助言を聞けるので確認しながら運動遊びをすることができ、半年の間の我が子の成長を感じることができた。

～成果と課題～

- 親子で工作や調理をするという時間は、ふだんじっくり我が子と向き合う時間の少ない親にとって貴重な時間となり、キャンプに参加した意義を感じていただけた。
- 参加した保護者の方から「楽しくためになるキャンプに参加できてよかった」という感想をたくさんいただいた。親子での運動をすすめる事業の必要性を感じた。
- 4年目の事業であるが、年々応募者が減ってきている。全3回に参加することが難しい家庭があるとの意見もあったので、同じプログラムを違う参加者対象に3回実施するなど実施方法を検討したい。